

大晦日、その年の最後の日のミサです。どんな気持ちでこのミサに与ったらよいかわかりますよね。感謝ですね。感謝の心を込めて与りましょう。

皆様それぞれに、いろいろなことがあったでしょう。生きづらい時も、又は、喜びに溢れてなんとか表現したいと思うほどの時もあったでしょう。でも一番大事なことは、皆様は今こちらに来て、ミサに与っている。「感謝の心を込めて、あなた(神様)の前にまいりました」と言う心が表せるということだけでも、素晴らしい一年を送ったのではないかと思います。未練もあるでしょうし、振り返ってみると後悔することもあるでしょう。しかし、それを全部乗り越えて、感謝の心を持ちましょう。これが送年会のミサの大事な意味ではないかと思います。

今年は、私にとっても個人的にいろいろありました。まず、渋谷教会からこちらに来て皆様と出会うことができました。そして、およそ8ヶ月間皆様となんとか一生懸命に共同体の生活をしたことは、私の人生の中でも大きな変化だったと思います。この場を借りて、皆様に感謝いたします。なによりも教会委員長はじめ、各委員会の方達、いろいろな面で、手伝うということではなくて、助けて下さったことを本当に感謝いたします。又、目に見えない所で、きれいな共同体を作るために奉仕して下さった人達がたくさんいることも、私は知っています。こういうことを続けていけば「みんなに喜びを与える共同体になる」という理想が、現実的なものになると思います。本当に感謝しています。

今日の福音の中でイエス様は『光』にたとえて語られています。光の反対は闇です。この世の中で闇が好きで、悪が好きで、否定的な面が好きで生きている人々はいないでしょう。しかし私たちはいろいろな闇を体験しながら生きています。その闇をなくすために私達が持つべき唯一の希望、すなわち、全ての否定的な面を破るために必要なのは『光』です。人間が作った光でなく、光自体であるキリストに委ねることによって出来る希望です。『光』によって照らされ、同じ光を照らすことが出来れば何と言う幸いでしょうか。

お願いします。今年を見送りながら、覚悟を持ちましょう。クリスマスの時にも申し上げたように、来年、私達は一人一人がそれぞれの希望に成って頂きたいのです。辛いことがあっても、苦しいことがあっても、絶対色が変わらない希望、キリストという光を持っている希望になって下さい。そうすれば、私たちは絶対倒れないと思います。イエス様が共にいらっしゃること、み言葉がおられることを信じながら生きましょう。来年は肯定的な生き方をすることを私たちの目標にしましょう。

今夜、一年の最後の日で、いろいろな国の人達がこのミサに与っていますが、私の話がわかりましたか？ どうですか？(数人の外国の人に質問するが、皆首をかしげる) このことが、私が一番困って、心を痛めていることです。私のこの心を皆様全員に伝えたいんです。なるべく、いろいろな国の言語で話したいんですけど、時間的にも現実的にも限界があります。それで、どのようにすれば一番良いかといつも考えてきました。

話が変わりますが、外国からきている方達にお願いがあります。ここは日本です。日本の国の中にある教会です。もし、日本で骨を埋めるつもりなら、日本語を習って下さい。特に子供を持っている外国の方は、ぜひ、日本語を習って下さい。

私が渋谷にいた時、心を痛めたことがありました。渋谷には若いフィリピン人のお母さん達がたくさんいらっしゃいます。ご主人はほとんど日本人です。結婚して子供が生まれます。まず、一番の難しさは子供のことで、フィリピン人のお母さんと日本人のお父さんの間にできた子供は普通の日本の家庭に生まれた子供より言葉の習いが遅いんです。なぜならお母さんから日本語を習うことができないし、お父さんは仕事から帰ってきて子供と伴う時間が少ないからです。勿論、子供は幼稚園、小学校、中学校を通して普通の日本の子供のように日本語が上手くなります。しかし、違う問題が出

て来ます。それは、お母さんが日本語がわからないために母と子の会話ができなくなることです。こんな悲惨なことがあるのでしょうか。自分の腹を痛めて生んだ子とコミュニケーションがとれないというのは、子供たちはお父さんとお母さんの中で育てられます。特にお母さんからの影響は大きいです。何とか深刻にその解決点を探さないといけないと思います。一番良い解決の方法は子供のために日本語を習うことだと思います。すぐに国に帰る人は、習わなくてもかまいません。しかし「あなたの国は、国籍は、日本です」という子供を持っているお父さんとお母さんは、日本語を習って下さい。それは大事なことを覚えてください。

私の望みは、他の言葉を使わずに、日本語で通じて欲しいということです。しかし、それができなくて悩んだ一年でした。特に、外国の人達のためにその国の言葉で話して、私の心を伝えられたら最高だと思いましたが、いろいろな事情があつてできませんでした。とにかく、月に一回は各言語別のミサが出来るようにすることを望みました。自分が出来るミサとそうではないミサとをかまわずに出来るだけ担当司祭として与かりました。分からない言葉のミサにはお知らせの時間を利用して通訳してもらって心を伝えました。色々限りがあつた一年でしたが、それでも神様の目にはきれいに見えたんじゃないかと思います。外国人の兄弟姉妹たちに、私が全てのことを果たすことができなかったことを理解して欲しいです。この一年を本当に感謝いたします。

ありがとうございました。